



Les Clefs d'Or Japan

レ・クレドールジャパン会報誌 “キー・ニュース”

Key News



2017年6月 第25号

インターナショナルコンgress2017開催 日本から8名が出席

レ・クレドールメンバー参加者 (敬称略)
住吉真矢子 (パレスホテル東京)
阿部佳 (グランドハイアット東京)
今泉愛子 (グランドハイアット東京)
小野山麻子 (インターコンチネンタルホテル大阪)
齋藤美紀 (シャングリ・ラ ホテル東京)
田嶋益美 (マンダリンオリエンタル東京)
野武宏仁 (コンラッド東京)
浜崎統 (ホテルオークラ東京)



3月23日から3月28日まで、第64回 UICH レ・クレドール国際年次総会が、ドイツのベルリンで開催されました。日本からは8名が参加しました。肌寒い天候を予想して降り立ちましたが、好天に恵まれ、充実した6日間を過ごしました。初日のウェルカムレセプションは、**Kraftwork**というイベントスペースにて催されました。ベルリン市内の5つのラグジュアリーホテルのケータリングによる美味を楽しみながら、メンバーとの再会を喜び合い、コンgressの幕開けとなりました。



2日目は、前会長の田嶋と現会長の住吉は理事会に終日出席し、各セクションの代表者とともに、私たちの組織運営について話し合いました。他の参加者は、国際年次総会に初めて参加するメンバー向けのプログラムや、市内観光のプログラムなど別々に行動する日となりました。初参加者向けのプログラムでは、ザ・ウォールドーフ・タワーズのシェフコンシェルジュのマイケル・ロメイ氏が、本年1月に東京で開催された“**Creating Service Magic**”セミナーの内容に基づき、レ・クレドールの歴史や、コンgressに参加する心得を共有されました。



市内観光は、Hop on Hop off Bus に乗り、自分たちの好きな所で降り、好きなところを見て回るというドイツらしい合理的なスタイルでした。ランチも自分たちの好きな時間に取ることができ、ベルリンで一番と称される、Hotel Adlon Kempinski でドイツ料理のビュッフェをいただきました。ベルリンの街中に、「ベルリンの壁」の跡があり、比較的最近まで東西が分断されていたという歴史的背景を目の当たりにすると複雑な気持ちになりました。

3日目は終日、エデュケーショナルセミナーが開催されました。5名の業界を代表するゲストスピーカーをお招きし、さまざまなお話を聞く貴重な時間となりました。

Ms. Heather Jacobs (フォーシーズンズホテルズ&リゾーツ 上級副社長 - 人事担当)

Mr. Chris Fradin (フォーブストラベルガイド ヨーロッパ地区副社長)

Ms. Stephanie Piimauna (プロフェッショナル・リーダーシップ開発コンサルタント)

Mr. Matthew Costin (On the Move, BDRC Continental 代表取締役社長)



Mr. Ralph Anderl (ic! berlin 創始者 兼 最高経営責任者) 中でも Ms. Stephanie Piimauna は、パッションに満ち溢れ、活力を取り戻す、満たす、繋がる、健康的且つバランスの取れたキャリアを形成するお話をされ、私たちへの大きな活力となりました。夜は、**Arminius Markthalle** という観光客はあまり訪れない地元向けのマーケットを半分貸し切って、屋台などのベルリンのストリートフードをいただきました。1891年に開設されましたが、第二次世界大戦で大きな被害を受け、戦後に再建されました。参加者は、雰囲気、食事、音楽そしてダンスタイムを楽しみました。



4日目は、年次総会が開催されました。前年度の活動報告、会計承認、そして、今年度の予算承認が行われました。来年以降の国際年次総会のプレゼンテーションも行われ、来年がソウル(韓国)、再来年がレ・クレドール フランス発足 90周年を記念して、1952年の第1回レ・クレドール国際

年次総会の開催地であったカンヌ(フランス)で開催される事が決定しました。また、レ・クレドールアワードという若手コンシェルジュ表彰の授賞式が行われ、アメリカの Ms. Jessica Gorman が見事栄冠に輝きました。候補者たちは互いに喜び合い、称え合いました。そして、



会長及び役員選挙が行われ、第一副会長のサイモン・トーマス氏(英国)が新会長に承認され、コリン・トゥーミー氏(オーストラリア)から会長職がバトンタッチされました。

夕食は、アジア諸国のメンバーとドイツ料理店に向かいました。10セクションから60名が参加しました。今回の年次総会で、アジアは2つのゾーンに分かれることが決定しましたが、今後もアジア一体となって頑張っていくことを誓い合い、さらに絆を深めました。



5日目の午前は、ベルリン・テンペルホーフ空港を見学しました。同空港は国際空港として戦前に開港し、戦時中は軍用飛行場として使用され、2008年まで使用されていました。

夜は、コンgressを締めくくるとガラディナーが開かれました。1920年代のダンスパーティーをテーマにしており、思い思いの衣装にドレスアップする参加者や民族衣装に身を包む参加者など、別れを惜しみながら、来年のソウルでの再会を約束し閉会しました。



様々な文化に触れ、その国、都市のことを学び、メンバーとの交流を深め、私たちはそこで得た知識、ネットワークを駆使し、世界中からお越しになるゲストへのサービスに情熱を注いでいるのです。(野武宏仁)